

第5回京丹波町地域福祉計画策定委員会次第

平成28年8月29日(月)
午後1時30分～
瑞穂保健福祉センター

1 開会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 地域福祉計画策定に向けた住民ワークショップまとめについて

(2) 地域福祉に関する基礎データからみる課題について

(3) 地域福祉計画策定に向けた課題のまとめについて

(4) その他

(5) 次回の日程調整

平成28年 月 日()

4 閉会〔副委員長あいさつ〕

京丹波町地域福祉計画策定委員会委員

自：平成27年8月26日

至：平成29年3月31日

番号	選出区分	所 属	氏 名	備 考
1	学識経験者	(京丹波町地域自立支援協議会)	波瀬 孝澄	
2	学識経験者	(京丹波町地域包括ケア推進委員会) 京丹波町身体障害者福祉会	片山 俊明	兼関係団体の役職員
3	学識経験者	(京丹波町子ども・子育て審議会) 質美地域振興会	大西 好美	兼関係団体の役職員
4	関係団体の役職員	京丹波町民生児童委員協議会	田中 強	
5	関係団体の役職員	京丹波町女性の会	竹内 裕子	
6	関係団体の役職員	京丹波町老人クラブ連合会	山上 幸二	(H28.6.24から)
7	関係団体の役職員	京丹波町母子寡婦福祉会	谷山 和子	
8	関係団体の役職員	京丹波町社会福祉協議会	津田 勝二	
9	関係団体の役職員	京丹波町シルバー人材センター	友金 一文	
10	町長が必要と認める者	京丹波町議会福祉厚生常任委員会	梅原 好範	(H27.11.25から選出替え)
11	町長が必要と認める者	京丹波町消防団	隅田 光郎	(H28.6.24から)
12	町長が必要と認める者	京丹波町商工会	野間 之暢	
13	町長が必要と認める者	竹野活性化委員会	中西 和之	
14	町長が必要と認める者	北部振興会	今海 博文	
15	町長が必要と認める者	ボランティアバンク運営委員会	木上 寛	
16	町長が必要と認める者	町内校園長会	野口 博之	(H28.6.24から)
17	関係行政機関の職員	国保京丹波町病院	藤田 正則	
18	関係行政機関の職員	京都府南丹保健所	山崎 正則	

事 務 局	保健福祉課長	大西 義弘	
	子育て支援課長	津田 知美	
	保健福祉課 課長補佐(包括支援センター)	井上 祐子	
	保健福祉課 課長補佐兼介護保険係長	岡本 明美	
	保健福祉課 課長補佐(福祉係)	上原 美智子	
	保健福祉課 課長補佐(福祉係)	豊嶋 浩史	
	保健福祉課 福祉係長	芦谷 真由美	

【京丹波町】地域福祉計画策定に向けた住民ワークショップまとめ

1. ワークショップの概要

住民と行政の協働による「地域福祉計画」の策定に向けて、地域で暮らす方の意見を把握するとともに、地域のことをその地域で暮らす方に話し合っただく機会を設けることを目的として、「ワークショップ」を開催しました。

	第1回（8月3日）	第2回（8月18日）
テーマ	地区の良いところ・悪いところ	地区の課題の解決策と将来像
参加者	丹波地区：7名 瑞穂地区：8名 和知地区：7名	丹波地区：7名 瑞穂地区：7名 和知地区：5名

2. 地区別の結果まとめ

<丹波地区>

① 地区の良いところ・悪いところ

雇用、社会資源、人間関係、サービス、人口減少・少子高齢、交通、環境の8つの分野に整理されています。人間関係、サービス、環境については“良いところ”についての意見が多く出された一方で、他の分野では“悪いところ”についての意見が多くなっています。

② 地区の課題の解決策と将来像

◇将来像：大家族（地区全体で「一つの家族」をイメージ）

◇地区の課題の解決策

	自 助	共 助	公 助
若者の定住対策	<ul style="list-style-type: none"> 若者が趣味を活かせる場の創出 郷土愛精神を育む子育て 		<ul style="list-style-type: none"> 雇用の場の創出 商業の活性化
	<ul style="list-style-type: none"> 老人と若者の接点をつくる（福祉施設、共同住宅等） 		
交通網の充実	<ul style="list-style-type: none"> 電話一本で送迎するサービス 		<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の整備

<瑞穂地区>

① 地区の良いところ・悪いところ

農林、自然、近所付き合い、交通、人口、働く、商業、その他の8つの分野に整理されています。自然、近所付き合い、交通については“良いところ”についての意見が多く出された一方で、他の分野では“悪いところ”についての意見が多くなっています。

② 地区の課題の解決策と将来像

◇将来像：なし

◇地区の課題の解決策

	自 助	共 助	公 助
交通	<ul style="list-style-type: none"> 町営バス利用法の検討 		<ul style="list-style-type: none"> 町営バスと他の公共交通との接続
農業	<ul style="list-style-type: none"> 瑞穂特産（小豆等）の栽培、加工・販売 		<ul style="list-style-type: none"> 特産作付け促進
近所付き合い	<ul style="list-style-type: none"> 新住民との交流の働きかけ 		<ul style="list-style-type: none"> だれもが参加しやすい行事の実施

<和知地区>

① 地区の良いところ・悪いところ

人の良さ～つながり、少子高齢化、文化・行事、生活面、自然、郷土愛の6つの分野に整理されています。少子高齢化、生活面については概ね“悪いところ”についての意見のみとなっていますが、他の分野では“良いところ”についての意見が多く出されています。

② 地区の課題の解決策と将来像

◇将来像：「田舎暮らしを楽しめる和知」－文化度の高い地域づくりを－

◇地区の課題の解決策

	自 助	共 助	公 助
人の良さ、『つながり』を活かす！！	・人の良さを伝える ・「わちらしさ」の保持 等	・（自然な）見守りネットワークの活用 ・声がけし集まる 等	・ネット等を活用し、広く他府県に和知の良さをPR 等
すばらしい文化・楽しい行事を活かす！！	・イベントに参加する ・子どもころから文化にふれる 等	・地域で文化や伝統をつなぐ ・近所で誘い合う 等	・伝統文化を学校教育に取り入れる ・他府県への広報 等
豊かな自然を活かす	・ゴミを捨てない ・草刈りをする 等	・夏の川、冬の雪を活用しイベント 等	・自然を活かした施設、遊び場整備 等
生活面の不自由さ・少子高齢化！！	・物づくりで健康保持 ・不便さを楽しむ知恵を大切にする 等	・You Tube で情報配信 ・だれもが集える居場所づくり 等	・公共交通利便性向上 ・情報提供体制の強化 ・人材育成の援助 等

3. ワークショップの結果からみる地域福祉における主な課題のまとめ

◇人口問題への対応

人口については、減少しているという規模の問題、少子高齢化という構造の問題について、それぞれ各地区で多くの意見が出されています。人口問題については、必ずしも地域福祉の中でそのすべてを扱うものではないことも踏まえながら、元気な高齢者が多いことなど、そのプラス面を様々な課題解決に活用していく視点が求められます。

◇地域の人をつながりの活用

表現は異なるものの、「人間関係（近所付き合い、人の良さ～つながり）」については各地区の良いところとして多くの意見が出されています。地域福祉は自助（家族力）・共助（地域力）・公助（福祉施策）によって推進されるものであり、人間関係の良さはこの中のまさに共助のベースとなるものです。今後はこうした人間関係をゆるやかに強化していくとともに、様々な地域の課題解決に向けて活用していく視点が重要となります。

◇豊かな自然の活用

地域の「自然（環境）」についても、「人間関係」と同様に各地区の良いところとして多くの意見が出されています。こうした自然を手入れし、美しく保つことは、それ自体の価値を高めるとともに、世代を超えて地域を想う気持ちを育むことにつながります。また、こうした活動を住民が主体的に行うことで、地域の中でより良好な人間関係が生まれることから、自然をより大切にする意識の醸成や、それを守る活動のための仕組みづくりが必要です。

◇交通利便性の向上

交通についても各地区で多くの意見が出されており、京丹波町内においても様々な意味での格差があることがうかがえます。買い物等の日常生活の利便性だけでなく、地域の活動に参加するためにも多様な交通手段の導入も含めた利便性の向上が求められます。

第1回 地区の良いところと悪いところの洗い出し（8月3日）

雇用

- ・こんな私でも働くところがある（ありすぎる）
- ・シルバニア人材センターで歳をとっても働ける
- ・働く場が少なく、若い人たちが生活しにくい
- ・若者の働ける企業が少ない
- ・働く場所が特定の場所しかなく、選べない

人間関係

- ・各地域にサロン等、人との関わり場がある
- ・隣近所が仲良し
- ・区民の絆がある
- ・人間関係がうるわしい
- ・小学生がよくあいさつをする
- ・女性の会があり、女性同士地域をこえて仲良くできる
- ・仲良しの友達が近所において、姉妹のようにつき合える
- ・近所で高齢者の姿が見えない場合、みんなが心配して訪問する
- ・ウワサ好きがいてふれ回る
- ・親子関係が悪い

社会資源

- ・町立病院がすぐ近くにある
- ・各地域に牛・豚の悪臭がある
- ・空き家が増えており、対応に困る
- ・住人を失った家が増えた
- ・街灯が少ない
- ・店が夜開いていない
- ・JR下山駅前のドブにフタがなく危ない
- ・音響信号にしてほしい

人口減少・少子高齢

- ・元氣なお年寄りが多い
- ・独居世帯や高齢者世帯の増加
- ・農業の担い手不足
- ・農林業の後継者不足
- ・行事に特定の人しか参加しない
- ・元氣な若者がいない
- ・若い人が少ない
- ・小学生が少ない
- ・人口が減少している

サービス

- ・社協の朗読ボランティアさんが毎月の広報をCDに録音して送ってくれる
- ・告知放送がケープルTVで放送され視覚障害者にはありがたい
- ・広報誌で地域のことがよくわかる
- ・社協さんは利用者に対して親切な方が多い
- ・福祉の面が手厚い
- ・ガイドヘルパーの方の参加料とお弁当代を町から出してほしい
- ・障害者福祉サービスと介護保険サービスの利用料と個人負担をあげないでほしい
- ・ケープルTVの文字放送の音声、細かくしらせてほしい
- ・商品名・値段のパッケージが小さく見えにくい
- ・独居高齢者の見守りが少ない

交通

- ・バイパスができて便利になった
- ・町の中心に向かう際には大きな道がある
- ・交通が不便
- ・高齢者社会で個々の交通機関が不適合
- ・どこへでもいけるようにしてほしい
- ・JR園部駅で電車からバスへの乗り換え時間が短い（5分程度⇒10分以上にしてほしい）
- ・電車からJRバス・町営バスに乗り継ぐ際、長時間待たなければいけないことがある
- ・（高齢者、障害者等にとって）JR嵯峨野線のJRバスの時刻表

環境

- ・野菜がタダでもらえる
- ・自給自足ができる
- ・土日に地域の用事が多すぎる
- 良いところ
- 悪いところ

第2回 地区の課題の解決策と将来像

丹波地区

「 将来像：大家族 」

【 若者の定住対策 】

- ・若者と交流できる機会をつくる
- ・若者が楽しめる趣味が生かせるような場をつくる（ダンス、ギター、バイオリン教室等）
- ・幼い頃より郷土愛精神をもつようなかかわりや子育てを行う

- ・工場誘致（企業）
- ・住宅対策
- ・若者の働く場の提供、確保
- ・一定の収入が得られる就職先を増やす
- ・若者が好むようなスパーパー・デパートがあれば、活性化するのは、

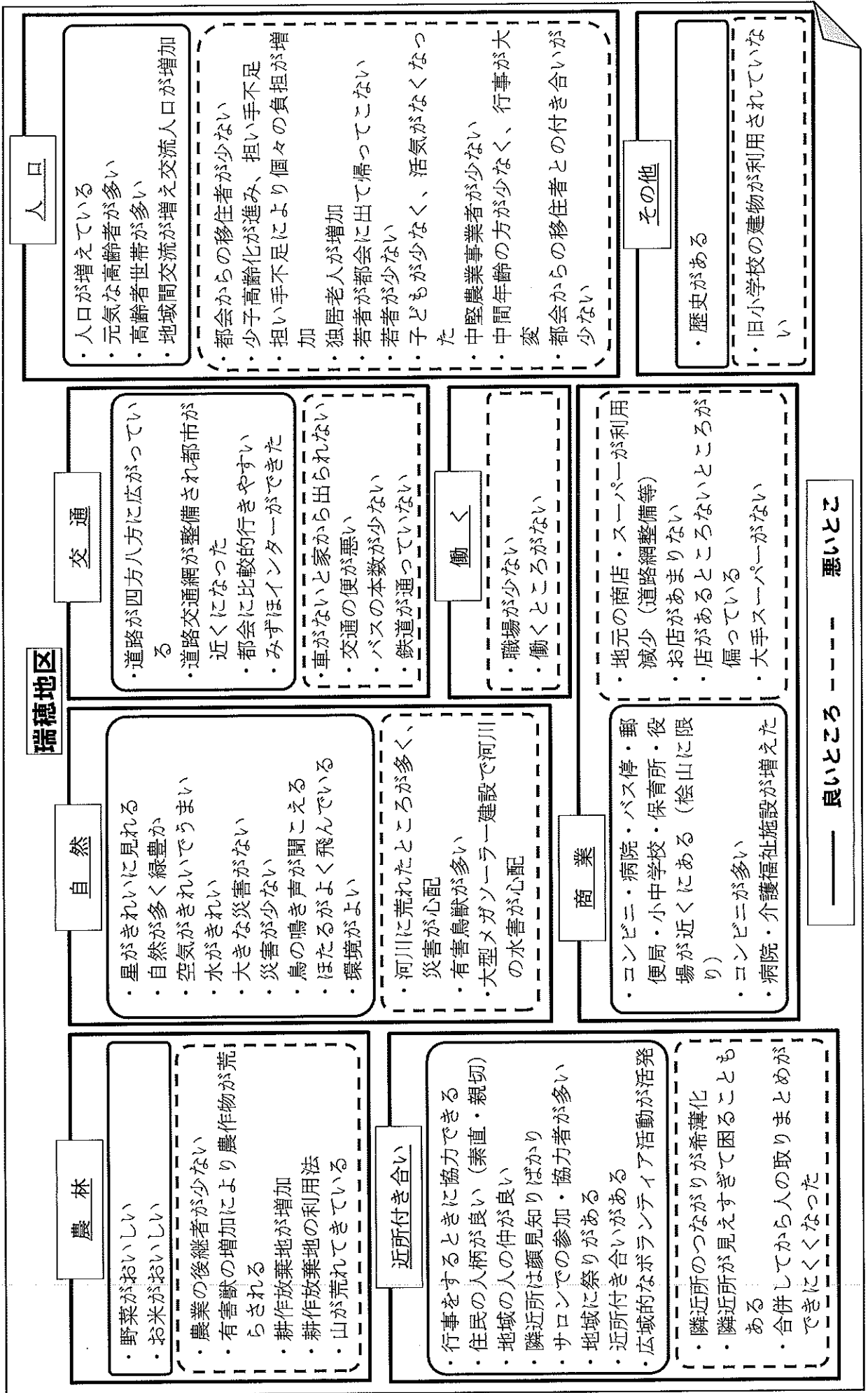
- ・福祉施設を増やし、老人と若者の接点を増やす
- ・共同生活施設とか共同住宅地を作る

【 交通網の充実 】

- ・電話1本かけたら送迎してもらえる車があるとよい
- ・免許証を返した人の交通をどうする？他人に乘せてもらうには事故の危険性がある！

- ・町のバス停とJRのバス停が同じ所だといい
- ・運転が出来ない人
公共交通機関より一定の補助金（回数券）（バス・タクシー等）
- ・電車の待ち時間が長すぎる。下山駅に乗りしてJR園部駅に下車してJRバスがくるのが50分待たないとこないのもっと早くきてほしい。

第1回 地区の良いところと悪いところの洗い出し（8月3日）



第2回 地区の課題の解決策と将来像

瑞穂地区

「将来像：なし」

交通

- ・町営バスの利用を考えよう

- ・町営バスをJR園部駅まで運転する
- ・町営バスの高齢者無料化（65歳）
- ・道路が四方八方に通っている工場の誘致

農業

- ・獣をとって売ろう！
- ・農業に魅力をつくる
- ・担い手不足を補うため新規就農法人化を進める
- ・小豆を植え、加工して売る

- ・おいしい米の宣伝をする
- ・後継者不足、だれが作ってくれるの？
- ・若い人が高校卒業すると都会に出てしまう
- ・瑞穂特産（小豆・瑞穂大納言）の作付けを促進する

近所付き合い

- ・新しい住民にも住所地での付き合いをしてもらうように働きかける
- ・村のお楽しみ会で参加者を増やす、交流会。
- ・高齢者が多い、近所で見守りあう

- ・だれもが参加しやすい行事を行う
- ・公民館を立て替えてほしい

第1回 地区の良いところと悪いところの洗い出し（8月3日）

人の良さ
～つながり

- 一人ひとりの性格を知りつくしている
- お互いに声をかけやすい関係がある
- 協力し合える関係がある
- 住民が明るく会話している
- 人とのつながりが深い
- 家族みんななどで子育てをしている家庭が多い
- 人が良い、優しい、親切
- すぐに誰とでも話ができる
- 打ちとけやすい
- 人情味がある人が多い
- 不便なところですが、それだけに「人」が良い、純粋な人が多い
- 皆が集まると楽しい時間がある
- ボランティアに参加できること
- 人口減少の中、活発な活動ができるよう考えている
- 穏やかな人柄の人が多く
- 生活を合理化するよう話し合う機会がある

近所付き合いが大変

和知地区

少子高齢化

- 子どもが少なくなり、和知で子育てするには勇気がいる
- 世代交代がうまくできていない
- 40代以下の若い世代が少ない
- 高齢化の典型の集落で、後ろ向き志向になりがち
- 話し合いが、やや苦手な人が多い
- 女性の存在価値をもっと認めていく必要がある。（男性第一主義的な面）

生活面

- 区内に町バスが通ってくれるのが助かる
- 物価が高い・空き家が増えた・各家が離れすぎ
- 最近福祉会の集まりが悪くなり、会費が減少し運営ができません
- 交通面が悪い（車がある人は便利になったが）
- 食べていける職を見つけないのが困難で、若い人たちが住みにくいのかも
- 他の地区の人からは、かなり不便で田舎だと思われている
- 外灯が少ない・介護保険料が高い
- 交通の便が悪く人の集まりには大変、特に障害を持つ者には大変

文化・行事

- 伝統を大切に守り伝える気質がある、伝統芸能がある
- 和知太鼓、和知文楽
- イベントが多い
- イベントがあっても参加しない人が結構ある
- ふるさと祭りがさみしくなってきた
- 地域の行事が人口減でできない（振興会の発足）

自然

- 静かな山村
- 水がおいしいですよ、でも日々の良さを忘れていて方が多い
- いい山、川がある、自然がステキ
- 空気が、水の美しさ、米のうまさ
- 自然が良い、鮎
- 中央を●川が流れ、景色が美しい。
- 古き良き日本の風景がある
- 田畑の管理を区で行っている
- 気候が良い（台風、災害が少ない）

自然が厳しい地域あり

- 雪が多い、野生動物が多い
- 猪、鹿、猿が増えてきて、人間が減ってきた
- 草刈りせんなん、違いはある
- 原発はこわいUPZ

郷土愛

- 和知はいろいろがんびらっているとよく言われる
- 「わち」という響きをこよなく愛している人が多い
- ふるさとを守り育てる会がある
- かけはし弁当

第2回 地区の課題の解決策と将来像

和知地区

「田舎暮らしを楽しめる和知」ー文化度の高い地域づくりをー 和知のゆるきゃら「わっきー」「わち」

◎人の良さ、『つながり』を活かす！！

- ・外部から入ってきた人にも人の良さを伝染させる
- ・住民が元気を出す
- ・「わちらしさ」を忘れない

- ・見守りのネットワーク（自然とある）を活かす
- ・良さを言葉にして子どもに伝える
- ・声かけしながら集まりをつくる

- ・他府県に和知の良さをアピールする
- ・わちの良さや田舎暮らしのよさをアピールする。発信する。

◎すばらしい文化・楽しい行事を活かす！！

- ・イベント等に積極的に参加すること
- ・毎年皆さんに文化踊りをする
- ・子どもの頃からみんなが文化にふれる
- ・住民自身が行事に参加する
- ・文化に参加する、見る、やってみる。スターにでかけてみる
- ・情報センターにでかけてみたり、自分もやってみる

- ・伝統文化の中で、文七踊りの普及と音頭取りの育成（コンテラスト形式など）
- ・地域で1つになり、文化・伝統をつないでいく
- ・隣近所誘い合っって行事に行く

- ・他府県にも行事がアピールできるように協力（広報支援）
- ・伝統文化と現代文化の融合（若者がとっつきやすい）
- ・文七も学校でやる、老人会で教えに行けないか

◎豊かな自然を活かす

- ・草刈りをしきれいな町づくり
- ・文化度の高い地域にする（和歌、俳句等をあたりまえに楽しむ）
- ・ごみを捨てないという1人ひとりの心がけ
- ・田んぼアート

- ・冬の雪の時のイベントを作る
- ・自然の良さをもつとアピールする
- ・夏の川のイベントをする
- ・大企業を巻き込んで「自然」のイベントできかないか（モデルとかか）

- ・カヌーを楽しんでいる
- ・自然+現代技術（3Dマップングやイルミネーション⇒人が来る）
- ・キヤンプ場を増やす
- ・アスレチックをつくる
- ・子どもの遊び場が近くにあると良い
- ・自然を活かせる人工的な施設をつくる
- ・安心安全な川遊びや山遊びの場づくりで有名になる
- ・良いところを強く発信する事
- ・大企業と一緒に川遊びのイベントはできないか

◎生活面の不自由さ・少子高齢化！！

- ・近居の良さをアピールする
- ・物づくりをして健康を保つ
- ・施設を利用すると良い
- ・子どもに和知の良さを伝ええる（植えつける、言い続ける）
- ・通い婚のすすめ♥♥♥
- ・結婚して他町に住まないで、京丹波町に住むこと
- ・田舎ぐらしの良さをアピールする大切さ、不便さを逆に楽しむ知恵を大切にする

- ・子どもから高齢者、誰もが集える居場所づくり
- ・インターネット関連でカボカポにきている（他府県より）
- ・人生の達人（高齢者サロング）
- ・中学生・高校生にYouTubeで情報流してもらう

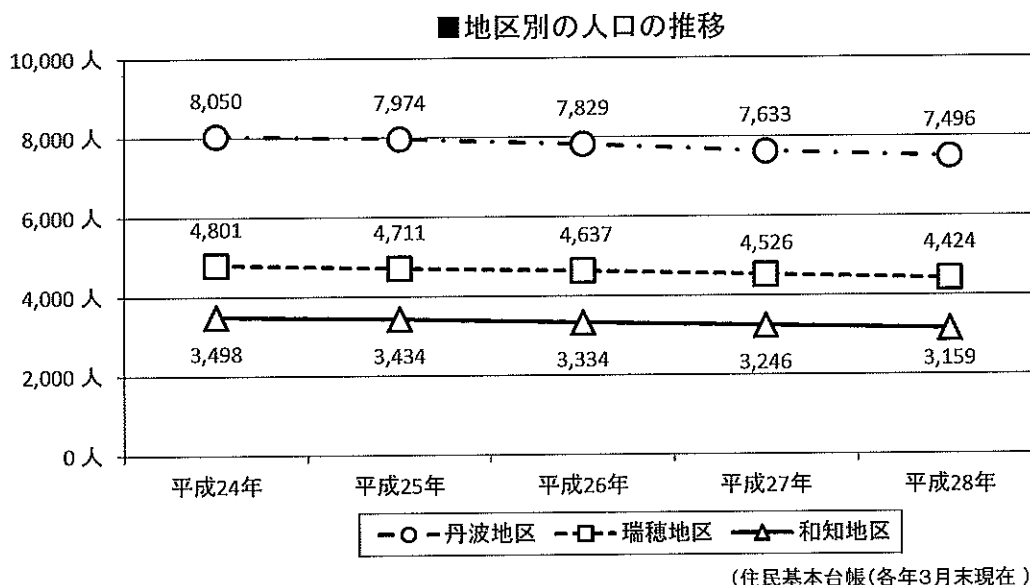
- ・交通面、もつと区内を通ると良い
- ・公共交通機関の本数を増やす
- ・近隣の市の企業の働く場の情報提供
- ・情報発信専門の人材確保
- ・京丹波にアウトトレットやイオンモール、コストコをよぶ
- ・人材育成プログラム（公務員、教育者、技術者）援助⇒帰郷償還なし

【京丹波町】地域福祉に関する基礎データからみる課題

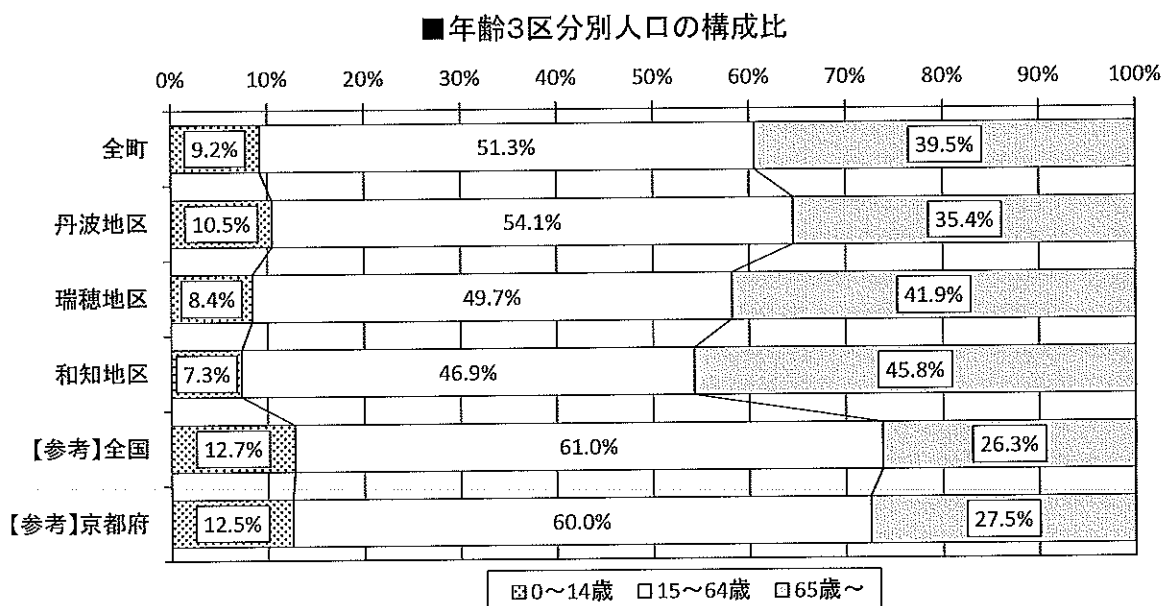
1. 基礎データからみる特徴

①人口

平成24年から平成28年の京丹波町の地区別の人口の推移をみると、3地区すべてで一貫して減少し続けています。5年間の変化率では和知地区が9.7%減と最も減少幅が大きく、次いで瑞穂地区が7.9%減、丹波地区が6.9%減となっています。なお、京丹波町全体では、5年間で7.8%減となっています。



平成28年3月末時点(全国・京都府は1月1日)の年齢3区分別人口の構成比をみると、全国や京都府の高齢化率(65歳～)が26～28%程度であるのに対し、京丹波町の高齢化率は40%程度と高くなっています。一方で年少人口比率(0～14歳)は全国や京都府が13%程度となっているのに対し、京丹波町では11～7%程度と低くなっており、国内の他の地域と比較して少子高齢化が進展していることがわかります。中でも和知地区の高齢化が目立つ状況です。



(単位:人)

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
全町	人口	16,349	16,119	15,800	15,405	15,079	-7.8%
0~14歳	人数	1,686	1,591	1,521	1,433	1,386	-17.8%
	比率	10.3%	9.9%	9.6%	9.3%	9.2%	-
15~64歳	人数	9,071	8,822	8,455	8,128	7,738	-14.7%
	比率	55.5%	54.7%	53.5%	52.8%	51.3%	-
65歳~	人数	5,592	5,706	5,824	5,844	5,955	6.5%
	比率	34.2%	35.4%	36.9%	37.9%	39.5%	-

(住民基本台帳(各年3月末現在))

(単位:人)

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
丹波地区	人口	8,050	7,974	7,829	7,633	7,496	-6.9%
0~14歳	人数	921	871	846	798	784	-14.9%
	比率	11.4%	10.9%	10.8%	10.5%	10.5%	-
15~64歳	人数	4,701	4,605	4,436	4,253	4,055	-13.7%
	比率	58.4%	57.8%	56.7%	55.7%	54.1%	-
65歳~	人数	2,428	2,498	2,547	2,582	2,657	9.4%
	比率	30.2%	31.3%	32.5%	33.8%	35.4%	-

(住民基本台帳(各年3月末現在))

(単位:人)

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
瑞穂地区	人口	4,801	4,711	4,637	4,526	4,424	-7.9%
0~14歳	人数	460	447	423	403	372	-19.1%
	比率	9.6%	9.5%	9.1%	8.9%	8.4%	-
15~64歳	人数	2,629	2,525	2,412	2,310	2,200	-16.3%
	比率	54.8%	53.6%	52.0%	51.0%	49.7%	-
65歳~	人数	1,712	1,739	1,802	1,813	1,852	8.2%
	比率	35.7%	36.9%	38.9%	40.1%	41.9%	-

(住民基本台帳(各年3月末現在))

(単位:人)

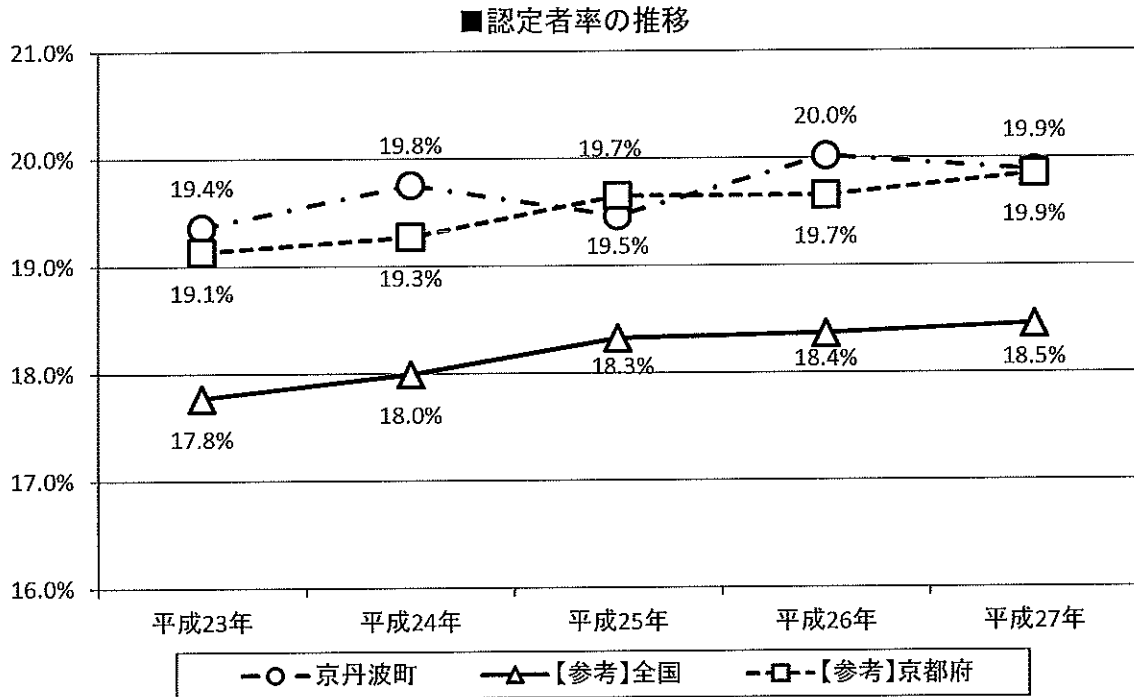
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
和知地区	人口	3,498	3,434	3,334	3,246	3,159	-9.7%
0~14歳	人数	305	273	252	232	230	-24.6%
	比率	8.7%	7.9%	7.6%	7.1%	7.3%	-
15~64歳	人数	1,741	1,692	1,607	1,565	1,483	-14.8%
	比率	49.8%	49.3%	48.2%	48.2%	46.9%	-
65歳~	人数	1,452	1,469	1,475	1,449	1,446	-0.4%
	比率	41.5%	42.8%	44.2%	44.6%	45.8%	-

(住民基本台帳(各年3月末現在))

②要介護（要支援）認定者

平成23年から平成27年の要介護（要支援）認定者数の推移をみると、京丹波町では一貫して増加しています。認定者率については、全国や京都府が一貫した増加傾向にある中、京丹波町でも多少の振幅はあるものの増加傾向で推移しています。また、割合としては全国より高く、京都府とほぼ同程度の水準となっています。

介護度別認定者数の平成23年から平成27年の変化率をみると、要介護1～3の認定者数は増加していますが、要介護4・5といった重度の認定者数が減少しています。



(介護保険事業状況報告(各年9月末現在))

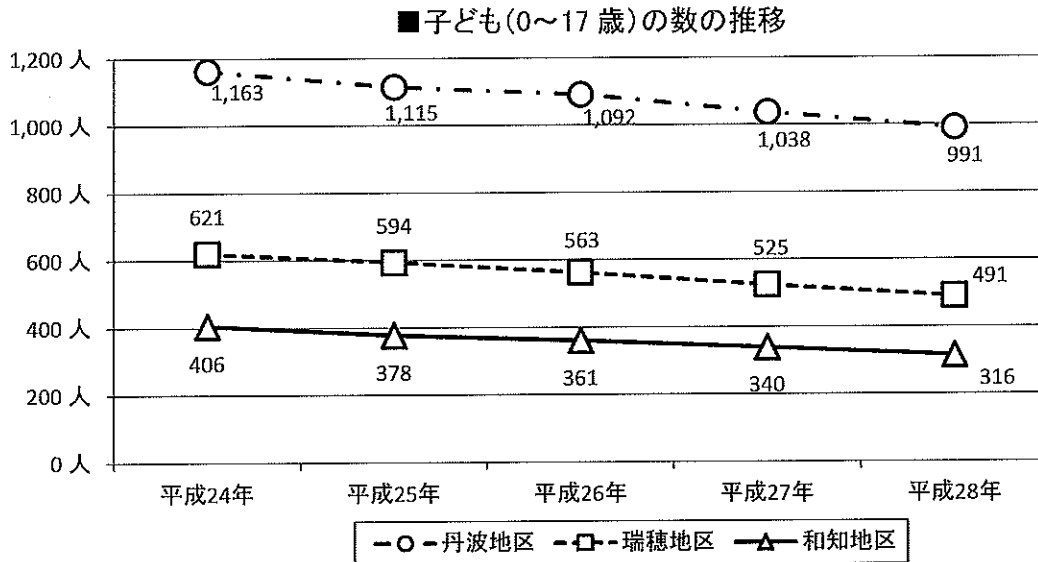
(単位:人)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	変化率 (H23⇒H27)
京丹波町 認定者数	1,079	1,120	1,128	1,171	1,178	9.2%
要支援1	60	74	55	70	60	0.0%
要支援2	137	139	131	133	132	-3.6%
要介護1	198	195	194	186	210	6.1%
要介護2	192	216	265	290	291	51.6%
要介護3	171	167	181	165	198	15.8%
要介護4	161	160	147	169	148	-8.1%
要介護5	160	169	155	158	139	-13.1%
第一号被保険者数	5,572	5,669	5,795	5,849	5,924	6.3%
65歳以上75歳未満	2,268	2,372	2,496	2,565	2,637	16.3%
75歳以上	3,304	3,297	3,299	3,284	3,287	-0.5%
認定者率	19.4%	19.8%	19.5%	20.0%	19.9%	-

(介護保険事業状況報告(各年9月末現在))

③子ども（0～17歳）の数

平成24年から平成28年の子ども（0～17歳）の数の推移をみると、町内のすべての地区で一貫して減少しています。5年間の変化率では、和知地区が22.2%減と最も減少幅が大きく、次いで瑞穂地区が20.9%減、丹波地区が14.8%減となっています。



(単位:人)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
全町 合計	2,190	2,087	2,016	1,903	1,798	-17.9%
0～5歳(就学前)	501	493	475	455	441	-12.0%
6～11歳(小学生)	695	669	627	600	579	-16.7%
12～17歳(中高生)	994	925	914	848	778	-21.7%

(住民基本台帳(各年3月末現在))

(単位:人)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
丹波地区 合計	1,163	1,115	1,092	1,038	991	-14.8%
0～5歳(就学前)	276	269	270	258	244	-11.6%
6～11歳(小学生)	391	381	355	330	324	-17.1%
12～17歳(中高生)	496	465	467	450	423	-14.7%

(住民基本台帳(各年3月末現在))

(単位:人)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
瑞穂地区 合計	621	594	563	525	491	-20.9%
0～5歳(就学前)	148	152	140	132	127	-14.2%
6～11歳(小学生)	186	173	164	166	162	-12.9%
12～17歳(中高生)	287	269	259	227	202	-29.6%

(住民基本台帳(各年3月末現在))

(単位:人)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	変化率(H24⇒H28)
和知地区 合計	406	378	361	340	316	-22.2%
0～5歳(就学前)	77	72	65	65	70	-9.1%
6～11歳(小学生)	118	115	108	104	93	-21.2%
12～17歳(中高生)	211	191	188	171	153	-27.5%

(住民基本台帳(各年3月末現在))

④要保護児童の状況

平成23年度から平成27年度の要保護児童数についてみると、公立小中学校児童生徒総数が減少している一方で、要保護・準要保護児童数はほぼ横ばいで推移しています。特に準要保護児童については就学援助率が平成26年度から平成27年度で3ポイント以上増加しています。

■要保護児童数の推移

(単位:人)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
要保護・準要保護児童合計	児童・生徒数	138	146	120	117	143
	就学援助率	11.4%	12.6%	11.2%	11.4%	14.8%
要保護児童	児童・生徒数	11	12	8	8	10
	就学援助率	0.9%	1.0%	0.7%	0.8%	1.0%
準要保護児童	児童・生徒数	127	134	112	109	133
	就学援助率	10.5%	11.6%	10.5%	10.7%	13.8%
公立小中学校児童生徒総数		1,207	1,157	1,071	1,023	966

(保健福祉課)

⑤生活保護の状況

平成23年度から平成27年度的生活保護の受給率の推移をみると、受給者数、受給世帯数ともに増加傾向で推移しています。

■生活保護受給率の推移

(単位:人)

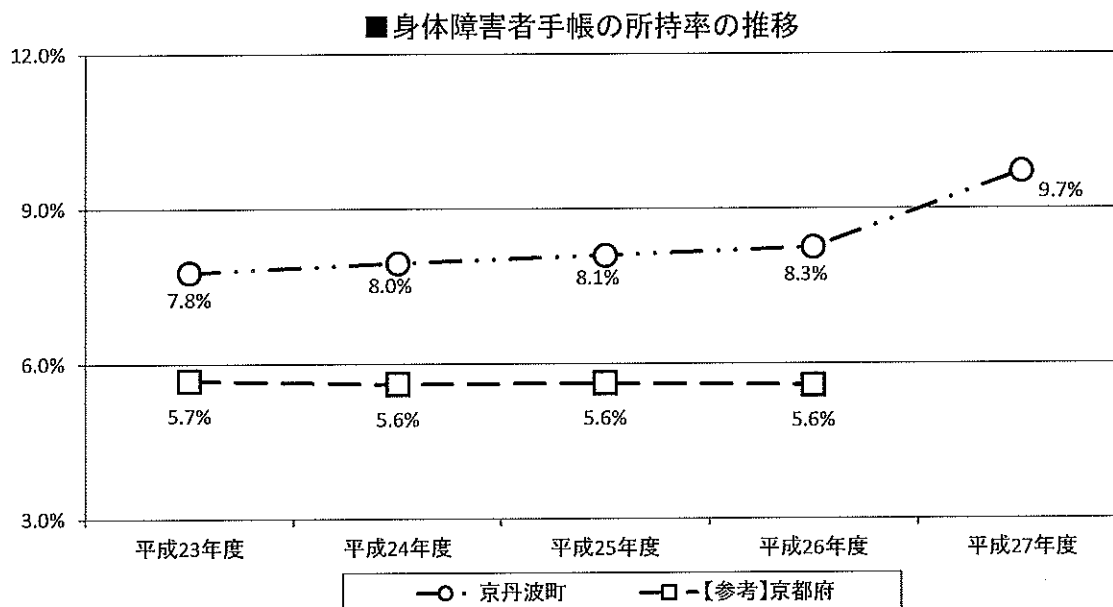
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
生活保護受給者数	人数	133	132	132	141	146
	受給率	0.8%	0.8%	0.8%	0.9%	0.9%
生活保護受給世帯数	世帯	91	95	100	107	110

(保健福祉課(各年度月平均))

⑥障害者手帳所持者の状況

平成23年度から平成27年度の障害者手帳所持者の推移をみると、精神障害者保健福祉手帳所持者を除いて、所持者数が増加しています。

特に、身体障害者手帳の所持者数については、平成26年度から平成27年度の1年間で大きく増加しています。身体障害者手帳の所持率を京都府と比較すると、京丹波町における手帳所持率が高いことがわかります。



(各町村保健福祉課(各年度末現在))

※京都府は京都府統計書の手帳所持者数(各年度末)、住民基本台帳の人口より算出(各年度1月1日)

※京都府の平成27年度についてはデータなし

(単位:人)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	変化率 (H23⇒H27)
手帳所持者合計		1,559	1,546	1,583	1,596	1,771	13.6%
身体障害者手帳	所持者	1,286	1,300	1,306	1,304	1,497	16.4%
	所持率	7.8%	8.0%	8.1%	8.3%	9.7%	-
療育手帳	所持者	159	158	166	167	168	5.7%
	所持率	1.0%	1.0%	1.0%	1.1%	1.1%	-
精神障害者 保健福祉手帳	所持者	114	88	111	125	106	-7.0%
	所持率	0.7%	0.5%	0.7%	0.8%	0.7%	-

(保健福祉課(各年度末現在))

※2種以上の手帳所持者を含む

2. 基礎データからみる課題

課題1 人口減少及び少子高齢化への対応

2008 年を境に、我が国全体が人口減少局面に入り、2050 年には人口が1 億人を下回るという推計も出されている中で、京丹波町の人口減少に即座に歯止めをかけることは非常に困難であると考えられます。

そのため、一定数の人口の上に成り立つ身近な各種サービス（小売、飲食、娯楽、医療など）の減少や、公共施設や学校の統廃合等により、様々なサービスの量・利便性の低下が想定されます。また、近隣住民同士の付き合いや地域活動への参加なども減少し、自治会や町内会、消防団などの地域の自立的な活動にも影響を及ぼしていくことが懸念されます。

人口の構造的な観点からは、京丹波町においては全国や京都府と比較して高齢化率が非常に高く、年少人口比率が低くなっています。

今後想定される人口を踏まえ、その規模や構造に応じた地域のあり方や、各種サービス等の提供の仕組みを検討するとともに、より効果的と考えられる取組を進めていくことが必要です。

課題2 要介護（要支援）認定者への対応

全国・京都府においては認定者率が増加傾向となっている中で、京丹波町においても多少の振幅はあるものの、増加傾向で推移しています。

今後高齢化がさらに進むことが想定される中で、元気な高齢者の存在やその活躍は非常に重要な地域資源となります。そのため、健康寿命延伸を含めた各種の介護予防への取組を推進し、可能な限りの介護度の維持、認定者の増加抑制に努めることが必要です。

課題3 子ども（0～17 歳）の減少への対応

町内のすべての地区で子どもの数が一貫して減少している中で、様々な子育て支援策は現在いる子どもへの対応策というだけでなく、今後の出生数の増加にもつながることから、子育てへの男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの実現も含めた多様な支援のあり方の検討が求められます。

課題4 要保護児童への対応（子どもの貧困）

公立小中学校児童生徒総数が減少する中で、平成 27 年度については要保護児童・準要保護児童の数が増加しています。

家庭の経済的な格差等が学力の格差や学習機会の喪失につながらないように、支援の継続・強化が必要です。

課題5 生活困窮者対策

全国的に生活保護受給者数、生活困窮に至るリスクの高い層ともに増加が懸念される中で、京丹波町においても過去5年間で受給者数が増加しています。

経済的自立のみならず日常生活自立や社会生活自立など、本人の状態に応じた自立を支援するとともに、生活保護に至る前の自立支援や生活保護から脱却した人が再び生活保護に頼ることのないようにすることが重要です。

また、SOSを発信できない人も含め、早期に生活困窮者を把握し、より深刻な状況に陥る前に問題解決を図る必要があります。

さらに、貧困の連鎖を断ち切り、子どもたちの希望と幸せの実現のため、課題4で記述したように、子どもの貧困対策にも積極的に取り組む必要があります。

課題6 障害者への対応

京丹波町における身体障害者手帳・療育手帳所持者の数は増加傾向にあり、特に身体障害者手帳の所持率は京都府と比較しても高くなっています。

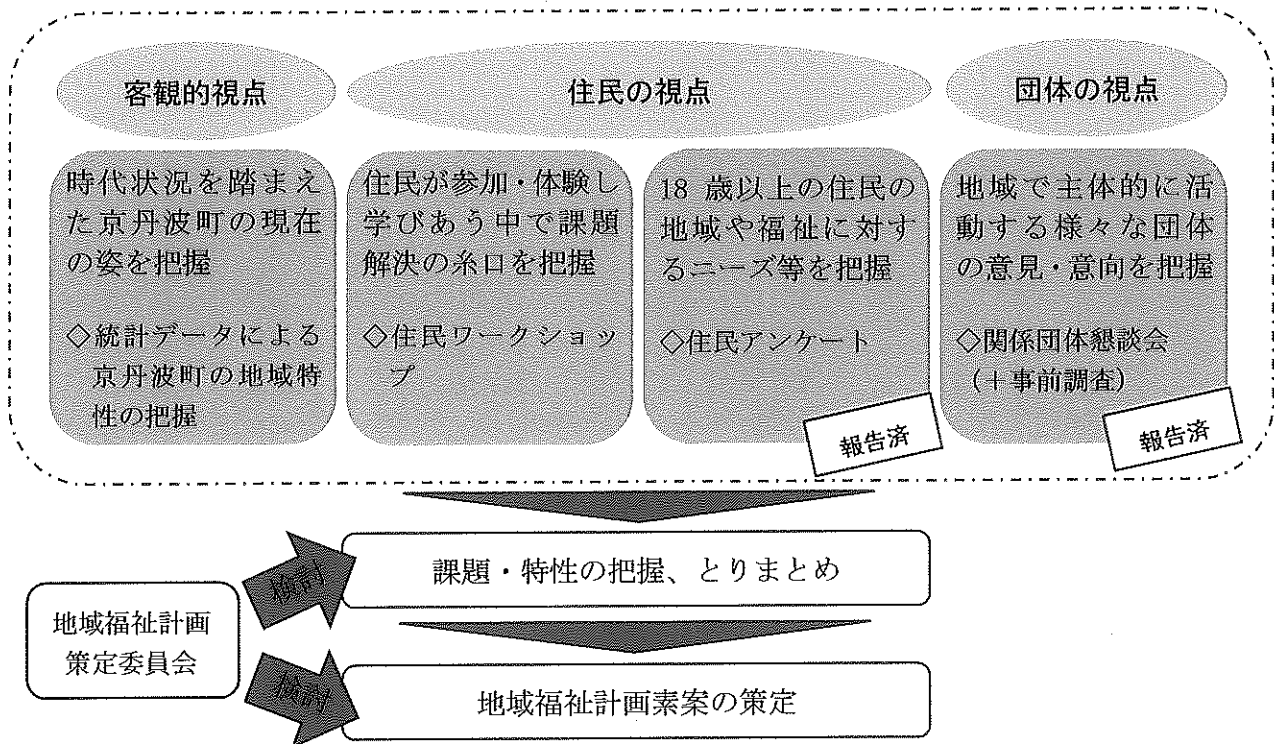
障がいのある人もない人も、生まれ育った住み慣れた地域で共生できるように、地域全体が支えあう施策・事業を総合的に推進することが重要です。

【京丹波町】地域福祉計画策定に向けた課題のまとめ

自助・共助・公助を基本とした地域における福祉の仕組みづくりを行う地域福祉計画の策定にあたり、地域で暮らす方の意見・意向を把握し、その主要な課題や特性を明らかにしたうえで計画の素案の策定を進めることを想定し、これまで様々な調査等を実施してきました。

【課題・特性把握の視点及び手法】

主要な課題・特性を把握するための視点と主な具体的手法は以下のとおりです。



【各視点から把握された課題・特性】

1. 客観的視点(統計データからみる課題・特性)

①人口減少及び少子高齢化への対応

人口が減少し、高齢化率が非常に高く、年少人口比率が低くなっている状況の中で、人口の規模・構造を踏まえた地域のあり方、サービス提供の仕組みの検討が必要。

②要介護(要支援)認定者への対応

元気な高齢者の存在やその活躍は非常に重要な地域資源であり、健康寿命延伸を含めた各種介護予防の取組を推進し、介護度の維持、認定者の増加抑制に努めることが必要。

③子ども(0～17歳)の減少への対応

子育て支援策は現在いる子どもへの対応策だけでなく、出生数の増加にもつながるため、子育てへの男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの実現も含めた多様な支援のあり方の検討が求められる。

④要保護児童への対応(子どもの貧困)

児童生徒総数が減少する中、要保護児童・準要保護児童の数は増加しており、経済的な格差等が学力の格差や学習機会の喪失につながるよう、支援の継続・強化が必要。

⑤生活困窮者対策

生活保護受給者数が増加する中、受給者の状態に応じた自立を支援し、生活保護に頼ることのないようにすることが重要。また、SOSを発信できない生活困窮者の早期の把握や、貧困の連鎖を断ち切るための子どもの貧困対策も必要。

⑥障害者への対応

障がいのある人もない人も、生まれ育った住み慣れた地域で共生できるように、地域全体が支えあえる施策・事業を総合的に推進することが重要です。

2. 住民の視点(住民ワークショップからみる課題・特性)

①人口問題への対応

人口問題については、必ずしも地域福祉の中でそのすべてを扱うものではないことも踏まえながら、元気な高齢者が多いこと等、そのプラス面を様々な課題解決に活用していく視点が求められる。

②地域の人のつながりの活用

地域の強みである人間関係の良さは共助のベースとなるものであり、人間関係をゆるやかに強化するとともに、様々な地域の課題解決に向けて活用していく視点が重要。

③豊かな自然の活用

地域のなかで新たな活動やつながりを生み、地域を想う気持ちを育む観点からも、地域の強みである自然を大切にすることをさらに醸成し、それを守るための仕組みをつくることが重要。

④交通利便性の向上

町内においても様々な意味の交通の格差がある中、日常生活の利便性だけでなく、地域の活動に参加するための多様な交通手段の導入も含めた利便性の向上が求められる。

3. 住民・団体の視点(アンケート調査結果及び関係団体懇談会(+事前調査)からみる課題・特性)

①地域のつながり

合併から10年が経過し、京丹波町全体、旧地域(丹波・瑞穂・和知)それぞれの取り組みの棲み分けも明確になる中で、ゆるやかな地域間のつながりが形成されるよう、旧地域のそれぞれの良さを京丹波町の良さとして打ち出すことが必要。

②後継者の育成

「時間がない」という理由で若い世代の地域活動等への参加がほとんどみられない状況にある中、地域活動やボランティア活動等について、若い世代の活動への参加の促進を含め、後継者の育成が課題となっています。

③交通利便性の向上

交通弱者(独居の高齢者、障がい者等)が買い物や通院、様々な地域活動へ参加するための交通手段の確保が必要。

④情報発信の強化

困ったときの相談先として役場や社会福祉協議会の相談窓口が選択されることが少ない状況であり、行政サービス・福祉サービスの内容や窓口の存在を周知することが必要。また、ボランティア関連情報等も含めた広報誌等の情報発信の強化が必要。

⑤災害時の備え

日常的な声かけ等により、住民同士が理解しあい、助け合う意識を深めることが必要。
また、災害時要援護者については関係団体への必要な情報提供が求められる。

⑥地域資源の活用

公共の有関係施設や空き家等に加え、元気な高齢者や学生等の人材など、様々な地域資源をつなげ、課題に対応することが必要。

⑦分野間・団体間の連携

多様化する福祉課題に対して、教育と福祉の連携といった分野・団体を越えた連携による課題解決の手法の検討が求められている。

<把握された主な課題と課題解決の糸口>

■主な課題

- ◇人口の規模・構造を踏まえた地域のあり方、サービス提供の仕組みの検討
- ◇生活困窮者への対応（早期の発見、子どもの貧困対策）
- ◇障害等の有無に関わらず、地域全体で互いに支えあうための施策・事業の推進
- ◇多様な主体の地域活動への参加も踏まえた交通手段の整備
- ◇若い世代の地域活動への参加促進を含めた、後継者の育成
- ◇行政サービス・福祉サービスの内容や窓口の存在の周知
- ◇ボランティア関連情報等も含めた広報誌等の情報発信の強化
- ◇災害時要援護者について関係団体等への必要な情報提供
- ◇日常的な声かけ等、住民同士が理解しあい助け合う意識の醸成

■課題解決の糸口

- ◇元気な高齢者の存在やその活躍を地域の課題解決に活用
- ◇地域の強み（人間関係の良さ、豊かな自然等）を課題解決に活用
- ◇旧地域それぞれの良さを、京丹波町の良さとして打ちだし、課題解決に活用
- ◇人材を含めた多様な地域資源をつなげ、課題解決に活用
- ◇分野・団体を越えた連携による課題解決の手法の検討
- ◇町営バスから自家用車の活用まで、幅広い観点による交通の課題解決手法の検討
- ◇だれもが楽しめるイベントの開催により、地域活動への参加を促進
- ◇地域と教育が連携し、伝統文化を学校教育に取り入れることで、郷土愛を醸成
- ◇不便さを楽しむ知恵や価値観の創出

【本日、議論いただきたいポイント】

- 主な課題に追加すべき課題の有無
- 課題解決の糸口に追加すべき内容・手法
- 京丹波町として地域福祉計画を推進する上でのキーワード

etc...

京丹波町地域福祉計画策定スケジュール（予定）

年度	時期	策定委員会等
平成27年	8月中旬	業務委託業者の決定
	8月26日（水）	第1回策定委員会 ◇委嘱状の交付 ◇計画策定スケジュールの概要説明 ◇講演
	9月～10月	アンケート素案作成
	11月2日（月） 11月18日（水）	作業部会（第1回） 第2回策定委員会 ◇意見交換 ◇アンケート調査の実施について
	12月11日（金） ～25日（金）	アンケート調査
	1月～2月上旬	アンケート調査 集計・分析
	2月19日（金） 2月26日（金）	作業部会（第2回） 第3回策定委員会 ◇アンケート調査結果（中間）報告 ◇次年度に向けた協議
	3月23日（水）	作業部会（第3回）
平成28年	4月下旬から5月上旬	関係団体等状況等調査（75団体） ※54団体回答
	5月31日（火）	関係団体等合同懇談会（30団体） ※3グループに分けて実施 ①12団体、②8団体、③10団体
	6月24（金）	第4回策定委員会 ◇関係団体等合同懇談会結果報告 ◇アンケート及び懇談会から見る課題報告
	7月22日（金） ～29日（金）	ワークショップ参加者一般公募
	7月29日（金）	作業部会（第4回）
	8月 3日（水） 8月18日（木）	第1回ワークショップ（22名参加） 第2回ワークショップ（19名参加）
	8月29日（月）	第5回策定委員会 ◇ワークショップ開催報告等
	12月	第6回策定委員会
	12月～1月	○パブリックコメントの実施
	2月	第7回策定委員会 ◇最終取りまとめ
	3月	地域福祉計画策定